



Wukir Suryadi (with Pia Van Gelder, Michael Candy, Lintang Raditya, Andreas Siagian.
Assisted by Ikbal S. Lubys)(Akar Mahoni (Mahogany Root)) 2013

TOPIC 01

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018
ザ・インストゥルメント・ビルダーズ・プロジェクト・キョウト
— 循環するエコー —



Dale Gorfinkel (Lotek Exercise Machine) 2014

THE INSTRUMENT BUILDERS PROJECT KYOTO



— CIRCULATING ECHO



Michael Candy, Pia Van Gelder,
Andreas Siagian
(MOS (Mountain Operated
Synthesizer)) 2013

The Instrument Builders Projectは、インドネシアとオーストラリアのアーティストによる、音や楽器に焦点をあてたコラボレーションプロジェクトとして、2013年からこれまで3回にわたり開催されてきたプロジェクトです。今回は日本も含めた3ヶ国の国際プロジェクトとして、京都で開催します。

インドネシア、オーストラリア、日本から計7名のアーティストを迎えて約3週間の滞在制作に取り組めます。このプロジェクトの特徴のひとつは全員でスタジオを共有する、ということなんです。活動分野も、文化的バックグラウンドもさまざまなアーティストが、期間中、プロセスを共有しながら、新たな楽器創りに挑戦します。

「音」、そしてその音を発する媒体としての「楽器」は、どのように創作する者や演奏する者の思考や視点を反映し生み出されていくのでしょうか。造形芸術、パフォーマンス、サウンドアート、コミュニティに根ざした音楽活動など、先鋭的かつ伝統をも参

照するフィールドで活躍するアーティストたちが共に取り組むその過程では、実験精神にあふれ、多様なアイデアが交差し重なり合う場が生まれるでしょう。プロジェクト期間中には、スタジオの公開、ワークショップ、トーク、創作された楽器によるパフォーマンスなど、新たな実験や発想が「楽器」という形で生まれるコラボレーションを、より多くの人と共有する機会が用意されていますので楽しみに。インドネシア、オーストラリアから日本にまで拡張する本プロジェクトで生まれる音は、循環するエコーとなり、この京都の地で響くことでしょう。

The Instrument Builders Projectは、演奏者と聴衆を繋ぐ「楽器」を再検討し数多くの議論や試作をとおして新たなあり方を模索する場です。今回、初となる京都でのプロジェクトでは、これまで以上に出身地域や使用言語、文化的背景が多様化し、より豊かなコミュニケーションや発想が期待されます。ぜひアーティストたちが創作に取り組む姿を間近でご覧ください。
松井正(アートコーディネーター)

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018
The Instrument Builders Project Kyoto
— Circulating Echo
プロジェクト期間：8月30日(木)–9月17日(月・祝)
参加作家：ケイトリン・フランツマン、荒木優光、ミスバッフ・デーデン・ピロク、ナターシャ・トンテイ、横山智子、塚原悠也、ヴキール・スヤディー
共同キュレーション：川崎陽子、勝治真美、ジョエル・スターン、クリスティ・モンフリース

オープンスタジオ
アーティストのスタジオでの様子、コラボレーションを通して作品が生まれるまでの雰囲気をご覧いただけます。
日時：9月4日(火)–9月16日(日) 14:00–18:00
※9月6日・9日・13日は休場、最終日は16:00まで
会場：フリースペース
※無料・入退場自由

展覧会
プロジェクト中に制作した作品を、過去のThe Instrument Builders Projectで制作された作品と合わせて京都芸術センターの館内各所に展示します。
会期：9月12日(水)–9月17日(月・祝)10:00–20:00
会場：京都芸術センター館内各所
※無料

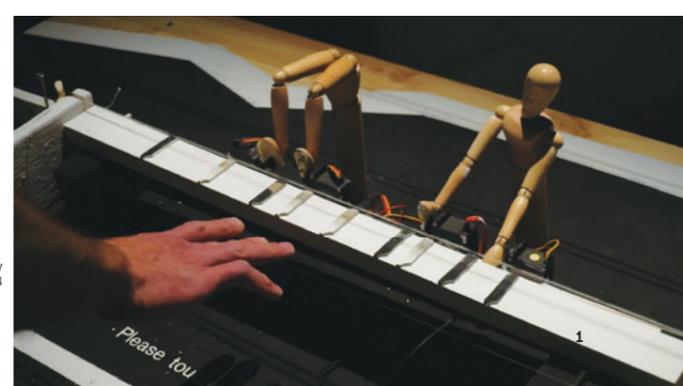
トーク vol.1
ケイトリン・フランツマン×ミスバッフ・デーデン・ピロク×横山智子
日時：9月14日(金) 18:00–19:30
会場：フリースペース
※入場無料・申込不要

※イベント情報(P2)もご覧ください

ワークショップ
創作された、また創作途中の楽器を演奏してみます。新しい楽器からは、演奏方法も発明できるかもしれません。アーティストと一緒に挑戦してみてください。
日時：9月15日(土)14:00–16:00
会場：制作室1
講師：The Instrument Builders Project Kyoto参加アーティスト
料金：無料
定員：20名(要事前申込)

トーク vol.2
荒木優光×ナターシャ・トンテイ×塚原悠也×ヴキール・スヤディー
日時：9月15日(土) 18:00–19:30
会場：フリースペース
※無料・事前申込不要

パフォーマンス
期間中に制作した楽器でパフォーマンスを行います。アーティストのコラボレーションによって生まれた、世界でひとつだけの楽器がどんな音とパフォーマンスを生み出すのでしょうか。
日時：9月16日(日)、17日(月・祝)開演19:00
会場：フリースペース
出演：The Instrument Builders Project Kyoto参加アーティスト
ゲスト：内橋和久(音楽家、9月17日のみ)ほか
料金：各日前売1,000円/当日1,500円



Wukir Suryadi, Michael Candy
(Table Hurdy Gurdy) 2014

EVENTS

※**●**印のイベントは、制作費が主催者負担です。

※**◎**印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です(制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外)
その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください

※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示
※制作支援事業は除く
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。チケット窓口でも受け付けます。

※**◎**印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です(制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外)
その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください
※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示

美術

FOCUS#1『キウチ芸術センター展』
京都を拠点に活動を続ける木内貴志による個展。
会期：7月27日(金)～9月9日(日)
10:00～20:00
会場：ギャラリー北・南
※入場無料

【関連企画】
トークイベント「『現代アート』という言い方が嫌いだ!」
日時：9月8日(土)14:00～16:30
会場：ミーティングルーム2
登壇：木内貴志(出展作家)、齊と公平太(現代美術作家)
※入場無料・事前申込不要

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018：連携 ResArtis/Videobrasil エンヘル・レオナルド 成果発表会『Meirin』
明倫小学校および日本建築についてのリサーチに基づき、館内各所に作品を設置します。
日時：8月31日(金)16:00～20:00
会場：京都芸術センター館内各所
※17:00より和室「明倫」にて、アーティストトークを行います

明倫茶会

「泉扇忌－デュシャンに捧げる茶会にして展覧会(のようなもの)」**◎**
日時：9月30日(日)
13:00／14:00／15:00／16:00
席主：小崎哲哉(アートジャーナリスト、プロデューサー)
本席：和室「明倫」
待合：ミーティングルーム2
内容：デュシャンにまつわる飲み物とお菓子と作品とお話
料金：1,000円
定員：各席20名(先着順／要事前申込)
※Topic02(P4)もご覧ください

伝統

雅フェスティバル
京都市立御所南小学校6年生が、能、落語、書道など伝統文化について学んできたことを発表します。
日時：9月5日(水)13:30～15:00
会場：京都芸術センター館内各所
※入場無料・事前申込不要
主催：京都市立御所南小学校、伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス

みみきぎプログラム #2 素謡の会「うたいろあはせ」
関連企画「謡曲ひとめぐり」
日時：9月15日(土)
受付開始13:00 開場13:30 開演14:00
会場：長講堂(下京区富小路六条)
演目：仏原
出演：河村晴道、味方玄、田茂井廣道、曾和鼓堂
料金：前売1,500円／当日1,800円
定員：30名
※チケットの販売は終了しました

音楽

みみきぎプログラム◎
#1 明倫レコード倶楽部
「喜怒哀楽のレコードの旅」[其ノ66]怒の会
日時：9月1日(土)開場14:30 開演15:00
料金：500円(1ドリンク付)
講師：いしいしんじ(作家)

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018 The Instrument Builders Project Kyoto –Circulating Echo
音や楽器に焦点をあてたコラボレーションプロジェクト。7名のアーティストが、3週間の共同制作に取り組みます。展示、ワークショップ、パフォーマンス等を通して、実験的な創作の様子を公開します。プロジェクト期間：8月30日(木)～9月17日(月・祝)

参加作家：ケイトリン・フランツマン、荒木優光、ミスバップ・デーン・ピロク、ナターシャ・トンテイ、縦山智子、塚原悠也、ヴギール・スヤディー
※プログラムの詳細はTopic01(P1)をご覧ください

演劇

演劇計画II－戯曲創作－
「S/F ー到来しない未来」KAC S/F Lab. **オープンラボvol.6「創作と批評」**
日時：9月27日(木)19:00～21:00
会場：大広間
登壇：大森望(翻訳家、書評家)、平倉圭(横浜国立大学准教授)
委嘱劇作家：松原俊太郎、山本健介
料金：無料
定員：40名(要事前申込)

ダンス

ニュー・ブランシュKYOTO 2018
ミアラム・レフコウィッツ&ジュリー・ラポルテ『作品のない展覧会』参加者募集
既に見ることのできない絵画等の作品を、身体で復元・伝承する参加型パフォーマンス。
日時：10月5日(金)
12:45／15:30／16:45／18:00
19:15／20:30 ※各回45分
会場：和室「明倫」
料金：無料
定員：各回4名(先着順／要事前申込)
対象：10歳以上
※動きやすい服装でお越しください
【関連企画】
『作品のない展覧会』ワークショップ
ダンス等の身体を使ったワークをしながら、『作品のない展覧会』の手法を体験します。
日時：9月28日(金)11:00～17:00
会場：和室「明倫」
講師：ミアラム・レフコウィッツ、ジュリー・ラポルテ
料金：無料
定員：15名(先着順／要事前申込)
対象：18歳以上
※動きやすい服装でお越しください
※Topic03(P4)もご覧ください

KYOTO EXPERIMENT

京都芸術センター×KYOTO EXPERIMENT アーティスト・イン・レジデンスプログラム 2018 「CHI-SEI.」オープンングイベント
人間以外のものに宿る「知性」に注目し、京都でリサーチを行うチリ出身の劇作家マヌエラ・インファンテ。リサーチに先駆け、自身のプロジェクトの紹介と専門家との対談を行います。
日時：9月14日(金)19:00～21:00
会場：ミーティングルーム2
登壇：マヌエラ・インファンテ、吉岡洋(京都大学 ころの未来研究センター特定教授)
料金：無料
定員：30名 ※予約優先
申込：KYOTO EXPERIMENT事務局
TEL：075-213-5839
WEB：https://kyoto-ex.jp

ロベルタ・リマ『水の象』
インストールン
日時：10月6日(土)～21日(日)10:00～20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00-22:00
※10月21日(日)は17:00まで
会場：講堂
※入場無料
※10月8日・14日・21日はパフォーマンス終了まで入場いただけません
パフォーマンス1
日時：10月8日(月・祝)19:00
パフォーマンス2
日時：10月14日(日)17:00
パフォーマンス3
日時：10月21日(日)13:00
会場：講堂
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
ユース・学生前売1,500円／当日2,000円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア3,500円、ロベルタ・リマ『水の象』セット券5,400円(前売のみ)

山城知佳子『土の人』『あなたをくぐり抜けてー海底でなびく 土底でひびく あなたのカラダを くぐり抜けてー』

展示『土の人』
日時：10月6日(土)～11月18日(日)
10:00～20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00～22:00
会場：ギャラリー 北・南
※入場無料

パフォーマンス『あなたをくぐり抜けてー海底でなびく 土底でひびく あなたのカラダを くぐり抜けてー』
日時：10月12日(金)16:00／18:00
13日(土)11:00／14:00／17:00
会場：フリースペース
構成・演出・映像制作：山城知佳子
出演：Sh0h(HUMAN BEATBOX ARTIST)、DJ SHOTA(DJ)、Tokiii(RAPPER) ほか
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
ユース・学生前売1,500円／当日2,000円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア3,500円(前売のみ)

市原佐都子／Ｑ
『毛美子不毛話』『妖精の問題』
日時：10月25日(木)19:30 [A]
26日(金)19:30 [B]
27日(土)14:00 [B] 19:30 [A]
28日(日)14:00 [A] 18:30 [B]
※[A]毛美子不毛話、[B]妖精の問題
会場：講堂
料金：一般前売 2,500円／当日 3,000円
ユース・学生前売2,000円／当日2,500円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア4,500円、[A][B]2演目券4,500円(前売のみ)

トークイベント

Theatre E9 Kyotoオープンリサーチプロジェクト「民間劇場にとっての公共性」第3回 シンポジウム「政治・哲学・経済と劇場」
日時：9月22日(土)15:00～16:15
会場：大広間
※入場無料・要事前申込
主催・申込・問合せ：一般社団法人 アーツシード京都
WEB：https://askyoto.or.jp/topics/
協力：京都文化芸術コア・ネットワーク、京都芸術センター
※京都文化芸術コア・ネットワーク・プロジェクトとして実施しています

ライブラリー

「あの人のおすすめ本」
日時：7月1日(日)～9月27日(木)10:00～20:00
※休室日：8月31日
会場：図書室
選書：清澤暁子(アートエリアB1事業担当)

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。(参加無料)

Monochrome Circus「コンタクト・インプロビゼーション入門編」
日時：9月1日(土)11:00～13:00
会場：制作室10
定員：20名
※動きやすい服装でお越しください

劇団三毛猫座「歩く、ととのえる」
自分の身体の歪みやズレを自覚し、動きに意識的になることを目指します。
日時：9月2日(日)14:00～15:30
会場：制作室9
定員：10名
対象：中学生以上
持物：歩きやすい上履き、飲み物
※動きやすい服装でお越しください

渡邊野子「私だけの美しい世界を描く～2018夏」
水で溶ける油絵の具を使い、小さなキャンバスに私だけの美しい世界を表現します。
日時：9月9日(日)14:00～16:00
会場：制作室4
定員：14名
料金：300円(材料費)
※作品はお持ち帰りいただけます
※汚れてもよい服装でお越しください

劇団しようよ「歌を聞いて『魔法の竜パフ』を描いてみよう」
楽曲『パフ』を聞き、絵で表現してみます。
日時：9月15日(土)13:00～15:00

会場：制作室8

定員：10名
対象：小学生以上、大人も歓迎
持物：使用したい画材(なくても可)

京都フィロムジカ管弦楽団
「室内楽演奏会」
日時：9月16日(日)13:00～14:00
会場：制作室12
定員：20名

KACセレクション

かえるP『スーパースーハー』◎****
かえるPのダンス作品をリクリエーションし京都で再演! 息つく暇しかないほどに吸うこと吐くことそれ以外を追求します。
日時：9月29日(土)15:00／19:00
30日(日)14:00
会場：フリースペース
出演：小野彩加、新宅一平、大園康司、橋本規晴
料金：一般前売2,800円／当日3,000円
U25前売2,500円／当日2,700円

【関連企画】
ワークショップ
日時：9月25日(火)、26日(水)19:00
会場：フリースペース
講師：大園康司、新宅一平、橋本規晴
料金：1日1,500円、両日2,500円
定員：各回15名
主催・申込・問合せ：かえるP
E-mail：kaeruppp@gmail.com

TICKETS チケット販売

Co-program カテゴリーA(共同制作)採択企画
笑の内閣
『そこまでいわんでモリエール』◎****
日時：10月31日(水)～11月4日(日)
全9ステージ
会場：フリースペース
作・演出：高間響
料金：先得決済14 2,500円(公演初日の14日前まで販売)／予約割3,300円／当日3,500円(U25各500円引)、高校生以下500円
※チケット販売開始：9月1日(土)

Ensemble FOVE presents 『TRANS』◎****
日時：11月27日(火)19:30
28日(水)15:00／19:30
会場：講堂
作曲：坂東祐大
出演：Ensemble FOVE(上野耕平[サクソフォン]、中川ヒデ鷹[ファゴット]、伊藤亜美[ヴァイオリン]、安達真理[ヴィオラ]、地代所悠[コントラバス]、梶原一統[フルート])ほか
料金：前売3,000円／当日3,500円
主催：Ensemble FOVE、京都芸術センター
※現在ウェブ予約のみ受付中
チケット販売開始：9月1日(土)

みみきぎプログラム[◎]
#1 明倫レコード倶楽部
「喜怒哀楽のレコードの旅」
日時：
[其ノ67]哀の会
12月1日(土)開場14:30 開演15:00

OPEN CALL 募集

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2019：エクステンジ／ソウルダンスセンター
コレオグラファー募集
2019年8月～9月にソウルダンスセンターでリサーチ、クリエイションに取り組むコレオグラファーを募集します。
支援内容：
・制作費1,800,000韓国ウォン(約180,000円相当 ※2018年7月現在)
・往復航空券(日本～韓国間)
・宿泊場所、スタジオの提供
・コーディネーターのサポート
募集期間：8月20日(月)～11月15日(木)(必着)

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

制作支援事業
安住の地 PLOW#1『一致か?不一致か? impedanceM/M』
新しい広場を発掘するPLOW企画始動します。
演劇、展示、ご飯にお酒ありの5日間!
日時：9月5日(水)～9日(日)
会場：妖怪ソーホー(上京区)
料金：2,500円(1ドリンク付)
問合せ：安住の地
TEL：090-8659-5138(岡本)
E-mail：anjuunochi@gmail.com

渡邊野子『GLITTER』
抽象絵画(油彩)を通じて対話を楽しむための展覧会。
日時：9月24日(月・振休)～10月13日(土)
14:30～19:00(日・月休廊)
会場：Gallery G-77(中京区)
料金：無料
問合せ：Gallery G-77
TEL：090-9419-9326
E-mail：g77gallery@gmail.com

まいやゆりこ
『幸福な王子-The Happy Prince』
「おしゃべりしてみたいいよ」。ダンスや影絵、演奏あり。親子で楽しむお芝居。
日時：9月30日(日)11:00／14:00
会場：茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)センターホール舞台上特設劇場
料金：一般1,000円(前売・当日共)
小学生以下500円(前売・当日共)
※3歳未満膝上無料
問合せ：公益財団法人茨木市文化振興財団
TEL：072-625-3055

[其ノ68]楽の会
2019年3月2日(土)
開場13:30 開演14:00
料金：500円(1ドリンク付)
講師：いしいしんじ(作家)

#2 素謡の会「うたいろあはせ」第2回
能楽の異なる流派の謡を聞きくらべます。
日時：12月18日(火)
受付18:00 開場18:30 開演19:00
演目：〈親世流〉経正、〈金春流〉花月
出演：林宗一郎、田茂井廣道、高橋忍、山井綱雄、白坂信行
料金：前売1,500円／当日1,800円
※みみきぎプログラム共通の半券割引が利用できません

第252回市民狂言会
日時：12月7日(金)
開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館(左京区)
演目：福部の神 動入り、察化、鱧包丁、鏡男
出演：茂山千作、あきら、千三郎、千五郎、宗彦、茂、逸平、童司、忠三郎
料金：前売2,500円／当日3,000円
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ(Pコード：488-237)
※団体券2,200円(20名以上)は京都芸術センターにて取扱
主催：京都市

チケットぴあで取扱いのチケットは、電話、びあ窓口、コンビニエンスストア(セブン・イレブン、サークルKサンクス)の専用端末などからご利用いただけます。
WEB：http://t.pia.co.jp
TEL：0570-02-9999

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および◎印の共催事業・制作支援事業

REVIEW

関西圏の公演・展覧会について、
若手レビューが月替りで執筆します。

2018年6月号(vol.217)「演劇レビュー」欄本文に表記の誤りがありました。お詫びして下記のとおり訂正いたします。
左から1段目1行目 (誤)少年王者館 → (正)少年王者館

美術

叫び声はどこから響くのか

雁木聡

明治150年・京都のキセキ・プロジェクト
京都市立芸術大学資料館収蔵品活用展
『叫び声/Hell Scream』

7月21日(土)～8月19日(日)

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都市中京区)

夏にぴったりの、とても言おうか。美術家の田村友一郎が、京都市立芸術大学芸術資料館の収蔵品の「演出」を試みた本展覧会は、酷暑のさなかにひんやりとした異界への回路を生み出していた。

本展の主役は、京都府画学校創立の立役者にして、南画(文人画)家・茶人の田能村直入である。古びた民家の玄関を模した会場入口には、直入や幸野煤嶺、望月玉泉らが著した画学校の開学建議書の巻子が置かれ、「田能村」「富岡」など、この展覧会の登場人物たちの表札がかかる。暗く、うすら寒いその場所は、さながらお化け屋敷のような雰囲気をもたらす。

何者かの気配は、玄関をくぐって長い廊下を渡った先にも濃厚に漂っていた。展示室で鑑賞者を迎えるのは、虎の一匹でも入りそうな金属製の檻である。その中には、煎茶道の貢献者でもある直入の茶道具類が、決して整然とした姿でなく、半ば打ち捨てられたように置かれる。その静謐さは、荒廃した茶室を思い起こさせ、かつての主人の影を印象付けるものであった。

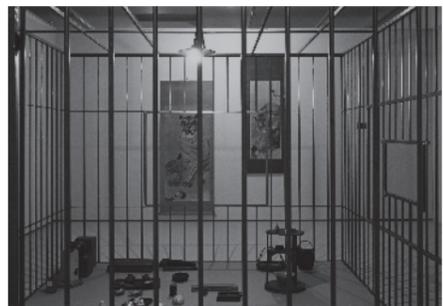
檻の手前には、中国・清代の文人画《米法山水図》がある。鑑賞者はそれを眺めながら、「小虎」と号した直入にまつわる物語を中国語音声で聞くことになる。

大江健三郎『叫び声』の一節から始まるそのナレーションは、こう告げる。恐怖の時代に救いを乞う叫び声を聞く者は、それを自分自身の声ではないかと疑うのだ、と。他者の声を引き受けること。その実践を地で行くように、虚実も、時代も入り混じった語りが続いていく。

れる。たとえば、虎の名のつく和菓子店の来歴や、虎を名乗るプロ野球球団の投手の話、そして山中で虎と化した直入と富岡鉄斎が出会う物語などである。やがてナレーターは、画学校の初代摂理(校長)でありながら、何らかの理由で職を辞した直入の人生を、明治以降の近代化の中で廃れていった南画の足跡とオーバーラップさせる。はたして語り手はこの山水図なのか、それとも虎になった直入自身なのか。いずれにせよ、連想ゲームのような語り口は、動物と人間、過去と現在、あの世とこの世といった、さまざまな「異世界」間の垣根を遊戯的に踏み超える。檻の奥にかけられた虎図の模本と、京都府立動物園の虎の絵巻も、その語りの道具立てとして機能していた。

こうした異界との往来という主題は、新平誠珠によるアルミ板の六曲一隻屏風《地獄変》に至って、より明確になる。新平は、直入と鉄斎の肖像を屏風の両端に配し、その間の4つの面には、両者の顔が溶け合ったイメージを連続的に描き出してみせた。この金属製の屏風と、地獄の火を思わせる赤絨毯との組み合わせは、本展のタイトルである「叫び声/Hell Scream」を視覚的に想起させる。地獄、ないしは異界から響く叫び声に答えることを芸術の発端とする考え方は、ロマンティックに過ぎよう。とはいえ、歴史の中で置き去りにされたものたちの声を聞き、その感触と戯れる行為の豊かさを、本展は確かに示していた。

かりきさとし/高等学校教員●酷暑を乗り切る術は、そもそも日中に活動しないことと言われます。そんなことは到底不可能だと知りながら、少しでも生き延びる道を探る日々です。



田村友一郎『叫び声/Hell Scream』展示風景
撮影：田村友一郎 提供：京都市立芸術大学

演劇

世界の裏から、表から

岡田路子

エイチエムピー・シアターカンパニー
『忠臣蔵・序 ビッグバン/抜刀』

7月5日(木)～15日(日)

AI・HALL(兵庫県伊丹市)

エイチエムピー・シアターカンパニー(以下エイチエムピー)の『忠臣蔵・序 ビッグバン/抜刀』が、伊丹のアイホールで上演された。「仮名手本忠臣蔵」を現代劇として再構成するシリーズの第一弾であり、赤穂浪士の敵討ちに取材した通し狂言「仮名手本忠臣蔵」を原作に劇作家くるみざわしんが書いた戯曲を、エイチエムピーの笠井友仁が演出した。

くるみざわは赤穂事件の発端に焦点を当て、吉良上野介に浅野内匠頭が切りつけた背景を解釈して現代社会を批評した。物語は、権威を振るう將軍の側用人柳沢吉保、中間管理職的役割の吉良、その部下の浅野という権力構造の中で浅野が行った朝廷接待費の減額の責任を巡って進む。元々は柳沢の指示で行われた節約だが、朝廷側が怒ると柳沢は責任を浅野に転嫁し、浅野の上司である吉良を叱責する。追い詰められた浅野は吉良から朝廷まで繋がる権力構造の打倒を夢想し、松の廊下で抜刀する。革命の夢想は一旦浅野の切腹で終結させられるが、不思議な夢を見た浅野の部下下に引き継がれる…。現代社会に通じるハラメント構造の中で浅野が追い詰められる様子が見事に描き出されていた。

エイチエムピーは近年俳優のみの座組と女優のみの座組を作り二種類の演出を見せる試みをしており、筆者も二度劇場に足を運んだが、今回は葵の御紋を模した舞台装置の表と裏を使い分けた点に工夫があった。装置は六角形の木枠の中に幅広いゴムを張り幾何学模様を作ったものを、三つ組み合わせた構造で、舞台



撮影：松山隆行

後方に配置された。

男優版は装置の前方で演じられ、その際装置にほとんど触れない点が特徴であった。彼らは、手を触れられない権力の象徴「葵の御紋」を背景に男社会の縮図を演じた。一方、女優版では男優版で装置の背後に掛けられていた黒幕が外され、装置背後の狭い空間に設置された客席から観る仕掛けになっていた。女優たちは装置を積極的に用いて演技する点が特徴である。装置背後に隠れたり、ゴムの間から顔を覗かせたりしつつ、男優版と同じ物語を、より戯画的に表現した。「葵の御紋」の枠の中で遊ぶ道化のような女優たちは、ハラメントを与える権力者側だけでなく、革命家の夢想自体も戯画化しているように感じられ、その点に惹かれた。

この両者の対比を示し得た背景には、演出の工夫だけでなく、俳優たちの身体性の差異がある。元々エイチエムピーは、20年ほど前にはルック・システムを基礎にしたフィジカル・シアターを展開しており、劇団古参の女優たちはその基礎を共有している。古参ではなくとも、女優版に出演した面々は、その身体性を習得しているように感じた。一方、男優版は、同様に作り込んだ身体性をうまいようとしているにもかかわらず、隠しきれない素の身体が見え隠れした。今回はその演技法の習熟度の差が、演出と絶妙に適合し、忠臣蔵の表世界と裏世界を際立たせていたように思われる。

言葉のみを追うとハラメント構造とその打倒を夢想する男たちの物語だが、俳優が演じ分けることでその裏面を考えさせられる視点がいくつも浮かびあがる。劇場に行く魅力を感じた。

(7月7日14:30の回、13日19:30の回を観劇)

おかだ ふきこ/大阪大学演劇学研究室助教●トリコ-Aの公演私の家族』で無料保育サービスや聴覚障害対応字幕サービスを実施された山口茜氏(劇作家・演出家)がゲストの観劇環境に関する勉強会に参加しました。知識も得ましたが、「やってみる」ことの大切さを教わりました。

音楽

映像と音で巡る旅へ

野口卓海

ヴィンセント・ムーン & プリシラ・テルモン
曾我大穂+スズキタカユキ from 仕立て屋のサーカス
5月28日(月)

UrBANGUILD(京都市中京区)

ヴィンセント・ムーンは、バリ出身のインディペンデント・フィルムメーカーだ。R.E.Mやモグワイといったミュージシャンの映像制作からキャリアをスタートし、近年では世界中を旅しながら、各地の伝統音楽や儀式などを素材に映像

作品を制作。地球上のそこかしこで多様に響く「音」を訪ね、地域や歴史や信仰といった背景を少しずつ横断し、映像によって境界を超えていくようなスタイルが特徴的だ。それらの膨大な旅の記録は、ウェブ上でも公開されている。そんなムーンが、写真家・作家のプリシラ・テルモンと共にを行ったパフォーマンスを今回は取り上げたい。

共演者としてラインナップされたのは、「仕立て屋のサーカス」のメンバーである曾我大穂+スズキタカユキ。音楽家・裁縫師・照明作家からなる「仕立て屋のサーカス」とは、音と布と光によるパフォーマンスを行うユニットである。音楽やパフォーマンス・アーツといった領域に分離されていない、未分化な状態にある原初的な表現を旨とし、即興的に音と空間を作り上げる。曾我大穂は音楽家を、スズキタカユキは裁縫師を、それぞれ「仕立て屋のサーカス」ではつとめている。

おもちゃのラッパのような楽器をくわえた曾我が入場し、イベントはスタート。曾我はフルートやアコーディオン、ギターなど複数の楽器を渡り歩くように演奏しながら、録音と再生を繰り返して多層的に音を重ねていく。ス

リングに少しずつ重ねられる曾我の音楽と、スズキによる布を用いた表現(手で裂く・ハサミで切るといった音も含まれる)が会場を文字通り埋めていく。舞台と客席との隔たりを見えなくするように布が張られ、衣装もその場で仕立てられる。会場はまるでどこか外国の片田舎の小屋のような雰囲気を持ち始めた。それは、ムーンのパフォーマンスが始まってからも残っていた。

静かな海辺でたくさんの人々が祈るようなシーンから、映像と音によるムーンの旅がゆっくりとはじまった。世界各地でフィールドレコーディングされた映像と音が、どちらも奏でられるように幾つも重なっては移ろい、展開していく。それらを通底して繋ぎとめるのは、プリシラ・テルモンの主張しすぎない歌声、あるいはごくささやかな楽器の演奏だ。密やかな儀式、雑踏、街並み、営み、世界中の音と景色が歴史や環境を渡り響いていく。信仰や祈りにまつわるシーンがしばしば登場し、信じられないほど近い距離から撮影されたそれらは、具体的な場所や由来のほとんどが観客には不明ではある。しかし、私たちがすると身近ではない場面の数々は、それでいて明らかに存在し

ていたことを瞬時に理解させる生々しい力強さや迫力があった。曾我大穂+スズキタカユキが先ほど作り上げた歴史的な世界観の中で、知らない土地の確かな断片が浮かんで鳴り、消える。気がつけば自分の所在が曖昧になり霞んでいくような、心地よい酩酊が渦巻いていた。

のぐち たくみ/美術批評家、詩人●愛知県清須市はるひ美術館へ、友人が入賞した絵画展へ向かった。最早うだる暑さ、降り立つ雨にはタクシーがなく、影を探し歩く。馴染みのない町並みは、それでいてどこかに共通した部分を見出すとそうする私の心根を初夏に晒した。七月二日、日曜日。



撮影：井上嘉和

EVENT CALENDAR 9/1 ▶ 9/30

1 sat	2 sun	3 mon	4 tue	5 wed	6 thu	7 fri	8 sat	9 sun	10 mon	11 tue	12 wed	13 thu	14 fri	15 sat	16 sun	17 mon	18 tue	19 wed	20 thu	21 fri	22 sat	23 sun	24 mon	25 tue	26 wed	27 thu	28 fri	29 sat	30 sun						
FOCUS#1『キウチ芸術センター展』(7/27-9/9)									FOCUS#1『キウチ芸術センター展』 【関連企画】トークイベント「現代アート」という言い方が嫌いだ!									明倫茶会「泉扇忌」 一デューシャンに捧げる茶会にして展覧会(のようなもの)																	
●雅フェスティバル									みみききプログラム #2 素顔の会「うたいろあはせ」 【関連企画】謡曲ひとめぐり(於:長講堂)									ニュー・プランシユKYOTO 2018 ミリアム・レフコウィツ&ジュリー・ラポルテ【作品のない展覧会】 【関連企画】【作品のない展覧会】ワークショップ																	
●みみききプログラム #1 明倫レコード倶楽部 「喜怒哀楽のレコードの旅」[其/66]怒の会									●アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018 The Instrument Builders Project Kyoto -Circulating Echo(8/30-9/17) オープンスタジオ(9/4-16 ※9/6-9-13は休)									●ワークショップ ●トーク vol.1 ●トーク vol.2 ●パフォーマンス									●Theatre E9 Kyotoオープンリサーチプロジェクト「民間劇場に於ける公共性」 第3回 シンポジウム「政治・哲学・経済と劇場」								
●【明倫WS】Monochrome Circus 「コンタクト・インプロビゼーション入門編」									●京都芸術センター × KYOTO EXPERIMENT アーティスト・イン・レジデンスプログラム 2018 「CHI-SEI」オープニングイベント									●【KACセレクション】かえるP「スーパースーパー」																	
●【明倫WS】劇団三毛猫座「歩く」とのえる」									●【明倫WS】渡邊野子「私だけの美しい世界を描く〜2018夏」									●【明倫WS】京都フィロムジカ管弦楽団「室内楽演奏会」									●【KACセレクション】かえるP「スーパースーパー」 【関連企画】ワークショップ								
									●【明倫WS】劇団しよう「歌を聞いて「魔法の竜パフ」を描いてみよう」																										

図書室休室日：9月28日(金)

TOPIC 02

明倫茶会

泉翁忌—デュシャンに捧げる茶会にして展覧会(のようなもの)

芸術、学術、産業など、各分野で活躍する方が席主となってお客様との一期一会を演出する明倫茶会。お菓子やお茶、しつらいや茶道具など随所にこだわりを散りばめた趣向は、現代の文化の一端を垣間見る機会となり、毎回新たな発見をもたらします。今回は、アートジャーナリストでプロデューサーの小崎哲哉氏を席主にお迎えします。

9月の明倫茶会で席主にお迎えするのは、アート雑誌の創刊や芸術祭のプロデュース等、現代アートを中心に多岐に渡る活動をされている小崎哲哉さんです。昨年10月には、小崎さんの企画による『見立てと想像力——千利休とマルセル・デュシャンへのオマージュ展』(元・淳風小学校、2017)が開催され、その「茶の湯」と「現代アート」が重なり合う視点から体験される展覧会を印象的に記憶している方も多いのではないのでしょうか。「見立て」や「しつらい」が「レディメイド」や「インスタレーション」と較べられるように、想像力や知性にはたらかける仕掛けに両者の似通った面白みを感じ取ることができます。

今回の明倫茶会では、マルセル・デュシャンの没後50年にあたる2018年秋に、茶会の形式に倣いながらデュシャンや現代アートについて思いを巡らせるひと時をしつらえます。飲み物とお菓子と作品とお話を楽しみながら味わう刺激的な一席に、どうぞご期待ください。

「現代アートの父」マルセル・デュシャンをしのぶ茶会。これからアートの世界で活躍したい芸術系大学の学生や若手アーティストの皆さんにも、ぜひお越しいただきたい一席です。
 富岡芽(アートコーディネーター)

既製品の小便器に偽のサインを施しただけの「泉」(1917)は、アートの概念を根底から覆しました。作者のマルセル・デュシャンが鬼籍に入ったのは1968年10月2日。没後50年を機に、「現代アートの父」をしのび、その功績について考える小さな会を開きます。なぜ便器がアートになるのか? レディメイドとは何か? そもそも現代アートとは? お道具拝見ならぬ作品拝見を行いながら、しばし思いをめぐらせてみませんか。
 席主 小崎哲哉

Profile

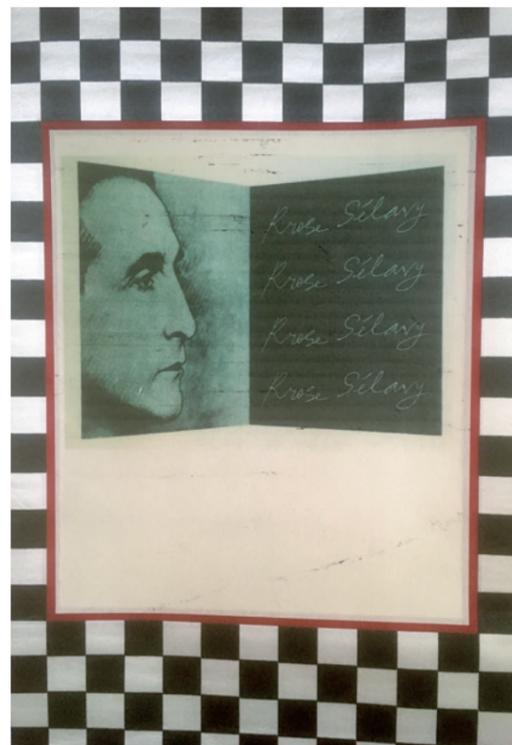
小崎哲哉 (おさき・てつや)

ウェブマガジン『REALKYOTO』編集長。京都造形芸術大学研究員。2003年、和英パブリッシングの現代アート雑誌『ART iT』を創刊。13年にはあいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当し、17年には京都で『見立てと想像力——千利休とマルセル・デュシャンへのオマージュ展』を企画開催した。編著書に、人類が犯した愚行を集めた写真集『百年の愚行』、『百年の愚行』がある。近著『現代アートとは何か』は、誰がどのように作品の価値を決めるのかを問う現代アートの入門書。

明倫茶会

「泉翁忌—デュシャンに捧げる茶会にして展覧会(のようなもの)」

日時：9月30日(日)13:00/14:00/15:00/16:00
 席主：小崎哲哉(アートジャーナリスト、プロデューサー)
 本席：和室「明倫」 待合：ミーティングルーム2
 内容：デュシャンにまつわる飲み物とお菓子と作品
 料金：1,000円 定員：各席20名(先着順/要事前申込)
 ※イベント情報(P2)もご覧ください



瀧口修造(ママン・レイ・マルセル・デュシャン)
 《ウィルソン・リンカーン・システムによるローズ・セラヴィ》1964
 表具：吉田裕子(2018—部分)



©Laetitia Striffling

TOPIC 03

ニュー・ブランシュKYOTO 2018

ミリアム・レフコウィッツ & ジュリー・ラポルテ 『作品のない展覧会』

毎年10月に開催しているニュー・ブランシュKYOTOに、京都芸術センターは今年も参加します。2018年は、京都・パリ友情盟約締結60周年と日仏友好160周年が重なる記念の年ということで、京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)とも連携し、日仏のアーティストたちが京都市内各所で多彩なプログラムを展開します。京都芸術センターではフランスの振付家ミリアム・レフコウィッツと、ダンサーのジュリー・ラポルテを招聘し、新作『作品のない展覧会』を発表します。

『作品のない展覧会』では、焼失や廃棄などで「既に存在しない作品」や、管理の難しさや政治的理由などで「存在はするが、見ることのできない作品」について、言葉や身体を通じて復元・伝承することを試みます。事前に募集した参加者たち(各回4名)は、レフコウィッツとラポルテから作品の特徴や逸話を聞き、そこから浮かんだ作品イメージを自らの身体で表現します。今や見ることのできない作品に思いを馳せ、身体を以って丁寧に向き合うことで、参加者たちは新たな身体感覚を発見することができるでしょう。

これまでレフコウィッツとラポルテは、目を閉じて歩くことによって街を感覚的に捉える(『Walk, hands, eyes (a city)』プロジェクト)など、私たちの周りに存在するものについて、普段とは異なる方法で知覚することを行ってきました。今回の『作品のない展覧会』では、目の前に存在しないものについて、言葉や身体でいかに伝達しうるのかを探ります。来日前より、世界各地の「見ることのできない」絵画や彫刻作品についてリサーチを始めた二人。これから、集めた作品たちが持つ様々な要素や背景にどうアプローチできるのか、ダンス等の身体を使った動きを取り入れながらじっくりと検証します。ニュー・ブランシュ当日、果たしてどのような展覧会になるのでしょうか。

ワークショップでは『作品のない展覧会』ができるまでのプロセスを、よりじっくりと体験することができます。ニュー・ブランシュと併せてぜひご参加ください。

奥村麻衣子(アートコーディネーター)

Profile

ミリアム・レフコウィッツ (Myriam Lefkowitz)

1980年生まれ。パフォーマンスアーティスト。観客とパフォーマーが直接的に対峙し行うパフォーマンス作品を世界各地で発表してきた。代表作『Walk, hands, eyes (a city)』は、第55回ヴェネチア・ビエンナーレやMOTサテライト(東京)など、世界各国で展開されている。



ジュリー・ラポルテ (Julie Laporte)

1977年生まれ。コンテンポラリーダンサー。Epsedanse(モンペリエ)とP.A.R.T.S(ブリュッセル)でダンスを学ぶ。フランス、ドイツ、ベルギー、スイスなどで、様々な演劇・ダンス作品に出演している。近年、ミリアム・レフコウィッツと共に、『Walk, hands, eyes (a city)』プロジェクトに取り組んでいる。



ニュー・ブランシュKYOTO 2018

ミリアム・レフコウィッツ & ジュリー・ラポルテ 『作品のない展覧会』参加者募集

日時：10月5日(金)
 12:45/15:30/16:45/18:00/19:15/20:30
 ※各回45分

会場：和室「明倫」 料金：無料
 定員：各回4名(先着順/要事前申込) 対象：10歳以上
 ※動きやすい服装でお越しください

【関連企画】『作品のない展覧会』ワークショップ

日時：9月28日(金)11:00-17:00
 会場：和室「明倫」 料金：無料
 定員：15名 対象：18歳以上
 ※動きやすい服装でお越しください
 ※イベント情報(P2)もご覧ください

ニュー・ブランシュKYOTO 2018

パリ白夜祭への架け橋—現代アートと過ごす夜

「ニュー・ブランシュ(白夜祭)」は、パリ市が毎秋行う一夜限りの現代アートの祭典です。姉妹都市である京都市では、市内各地で無料で楽しめる現代アートのイベント「ニュー・ブランシュKYOTO」を2011年より開催しています。「ニュー・ブランシュKYOTO 2018」は「五感」をテーマに、10月5日(金)に開催されます。

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
 KYOTO ART CENTER 1F
 MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
 NAKAGYOKU, KYOTO
 TEL.075-221-2224
 10:00~21:30 everyday

夏休み企画展『感覚のあそび場—岩崎貴宏×久門剛史』
 2016年7月26日—9月11日
 展覧会カタログ 定価 500円(税込)
 京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



交通案内
 ○市営地下鉄烏丸線「四条」駅/
 阪急京都線「烏丸」駅22番出口より徒歩5分。
 ○市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
 ○ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
 談話室・チケット窓口
 ○カフェ 10:00-21:30
 ○制作室、事務室 10:00-22:00

休館日
 12月28日から1月4日
 ※設備点検のため臨時休館することがあります

〒604-8156
 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
 TEL : 075-213-1000 FAX : 075-213-1004
 E-mail : info@kac.or.jp URL : http://www.kac.or.jp/
 twitter : @Kyoto_artcenter
 http://www.facebook.com/kyotoartcenter

